



子どもたちの2つ目の約束は『グリット』???

ー「人生の成功者になるために」の巻ー

河崎小学校長 濱田 晴明

「ダックワース先生、人生で成功を収める鍵は何ですか？」

「もって生まれた才能ですか？」

→「ノー」

「知能指数の高いことですか？」

→「ノー」

「名門と言われている大学へ入学することですか？」

→「ノー」

「それでは、私のような(木村拓哉のような)ルックスとスタイルの良さですか？」

→「ノー」

「いったい何なのですか？ 教えてください。」

→「それは『グリット』です。」



ダックワース教授

ペンシルバニア大学のダックワース教授の研究が書かれた本が、世界で話題を呼んでいます。長年に渡って、成功した人を調べてきた結果、成功を決めるのはたった一つのことであることをつきとめたそうです。それが、『グリット』だそうです。

『グリット』(やり抜く力)

物事に対する情熱であり、また何かの目的を達成するためにとてつもなく長い時間、継続的に粘り強く努力することによって、物事を最後までやり遂げる力

ちなみに、才能があっても、最後まで決めた事をやり抜けない人たちがたくさんいるとのこと、また、やり抜く力は才能の高さとは、むしろ、反比例するのだそうです。

全校朝会で以下の例を出して、「やり抜くこと」の大切なことを話しました。

①エジソン 自動車用のアルカリ蓄電池の実験で何回も失敗した。しかし、途中であきらめずにやり抜き、5万回失敗の後、発明に成功した。

②リンカーン 倒産、10回の落選などにもめげずに50歳でアメリカ大統領になった。今でも「最も偉大な大統領」として名前があがっている。

③有森裕子 高校・大学・実業団の時、目立った記録を出してなかったために、陸上部への入部を断られた。しかし、あきらめずに、マネージャー兼務などの条件で入部を許可され、走り続け、オリンピックで2大会連続のメダルを獲得した。

※濱田晴明 (成功した人の中には入らないが…) 日本体育学会で、「これは研究ではない。」などと言われた。しかし、めげずに20年間発表をしてきた。その結果、私の研究が他県の教科書に掲載されるなど、少しは他の人に役に立つ研究となった。(※研究でそれなりの成果を出すには、もって生まれた才能やルックス・スタイルではなく、やり抜くことを証明した。)

これまでの河崎小学校の約束「自分が人からされていやなことをしない、言わない」に付け加え、二つ目の約束「自分の能力は伸ばせると信じ、失敗してもやりぬく。」を子どもたちに紹介し、常日頃から意識して行動をするように指導しました。



それでは、ダックワース教授が主張している子育ての方法の一部を紹介します。

①子どもを褒めるときには才能ではなく、いかに努力したかを褒めてあげる。

②周囲の大人が子どもの自主性を尊重しつつ、興味を伸ばしてあげる。

③失敗をさせ、そこから立ち上がらせる。その際、親が失敗から立ち上がった経験を語る。

④「人はどんな困難でも乗り越えられる」と考える成長思考を教え込む。

⑤厳しくありながらも、優しく応援する。子育てのタイプには以下の4つがある。

A怠慢：子どもに求めず、支援もしない B寛容：子どもに求めず、支援はする

C独裁：子どもに求め、支援をしない D賢明：子どもに求め、支援をする

※『求める』=今やっているレベルよりも高いレベルのことができるように要求すること。

4つのタイプの中でもD賢明タイプに育てた方が、子どもが成功していく。



「ベストの子育て方法はない。目の前の子どもを見て、その子に合った方法をいくつも試してみることが大切である」と私は考えます。今回もあくまでも一方法ですが、科学的なデータに基づいていますので、試してみると良いと考えます。